2023年11月25日（土）
主催：言語戦略研究所
講師：齋藤 匡章

2023年 秋の講座

【読む精度を高めよう】

～ 離れたものを繋げる感覚 ～

【今日の課題】

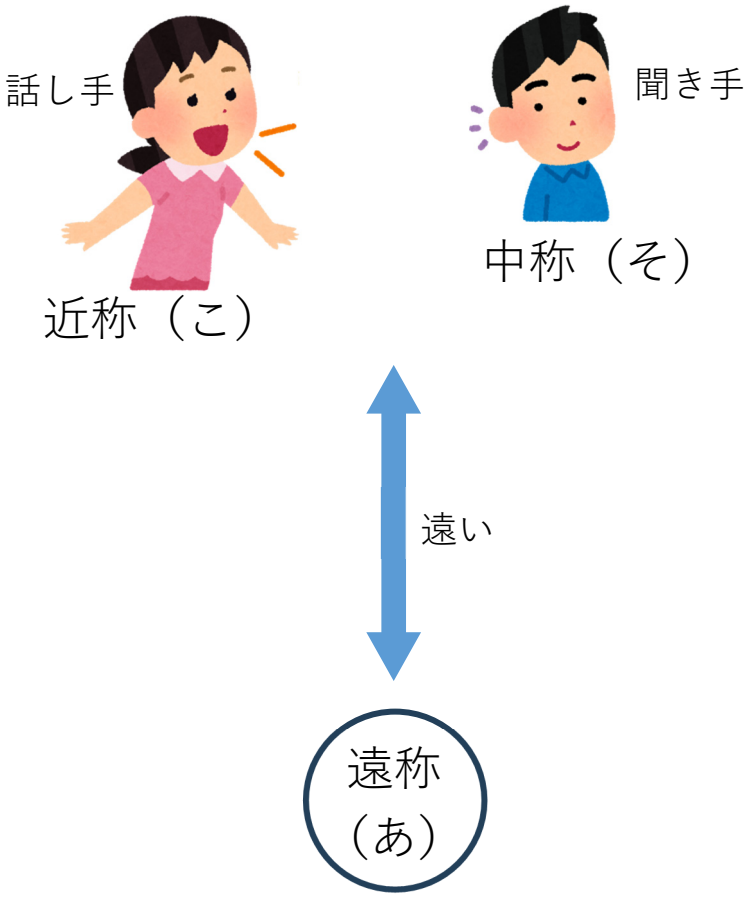
◆ 指示語を極める
◆ 繋がりを保ちながら読む
◆ 内言語の質を高める

1．指示語とは

何かを指し示す働きをする語。「こそあど言葉」などとも呼ばれる。

① 近称 …….話し手に近い。「これ」「ここ」など
② 中称 …….聞き手に近い。「それ」「その」など
③ 遠称 …….話し手・聞き手のどちらからも遠い。「あれ」「あそこ」など
④ 不定称 ….遠近が決まっていない。「どれ」「どの」など

品詞		①近称（こ）	②中称（そ）	③遠称（あ）	④不定称（ど）
名詞（代名詞）	事物	これ	それ	あれ	どれ
	場所	ここ	そこ	あそこ	どこ
	方角	こちら	そちら	あちら	どちら
連体詞		この	その	あの	どの
副詞		こう	そう	ああ	どう
形容動詞		こんなだ	そんなだ	あんなだ	どんなだ



【指示語を使いこなすポイント】

- 指示語があったら、指示対象を意識する
- 指示語が省略されていることがある
- 不要な指示語をいちいち明示すると違和感につながる

《日々の養生１》椅子に座ったまま筋肉を刺激する

椅子の座面、太股の両側あたりに両手をつき、床から両足を浮かせる。

２．指示対象を意識しながら読んでみよう

【指示対象を探す手順】

① 指示語の直後からヒントを得る
② 前にさかのぼって答えを探す
③ 答えを指示語に当てはめて確認する

相手から尋ねられているわけではないが、伝えておいたほうがいいか迷うこともあるだろう。その場合、その人にとって重要なこと、気になるであろうことは伝えるほうが誠実である。

肋骨は動かない……こういう誤解は、「リブケージ」（胸郭）という言葉のイメージから生じています。この言葉は上手い表現のようですが、肋骨の骨組みがまるで鳥かご（バードケージ）のように硬く動かないという印象を与えてしまうのでしょう。

木星の特徴は、なんといってもその大きさである。木星は太陽系で一番巨大な惑星である。その直径は約14万km。地球の直径の11個分もある。重さ（質量）も太陽系の惑星の中で一番重く、地球の約320個分もある。木星以外の惑星を全部足しても、木星の重さの半分にもならない。

写っているのはなんだろうと想像しながら、まずは写真をご覧いただきたい。右上はドローン？　今にも飛び立ちそう。左上はまるで緑色のピラミッド、ここは一体どこ。これらは新潟県内４カ所をヘリコプターで上空から撮影した写真だ。街並みや海、山といったスケールの大きな被写体を写したり、災害や事故など到達困難な現場を撮影したり、そんな場面で空撮は力を発揮する。

《日々の養生２》肩甲骨と背骨をやわらかく動かす

背骨を左右にくねらせながら、肩甲骨も左右交互に上げ下げする。

《ちょっと気分転換》クリスマスソングを聴こう

３．指示語がなくても繋がりを意識する

- 同じものを別の言葉で言い換えていることがある
- 何のこと？　どれのこと？
- （話し始めで）それこそ、なにしろ、とにかく…どこにかかっているのか

（11月16日の日報抄）

どの世界にも業界用語や隠語の類いはある。政界や永田町かいわいも、ご多分に漏れず多くの言い回しが存在する。このところ特に頻繁に耳にするのが「身体検査」だ

▼本来の意味は身長や体重を測定したり、所持品を調べたりすること。政界では人事に際し、候補者に実施する身辺調査のことを指す。不祥事につながる恐れのある人物をあらかじめ候補から外し、人事を実行した政権などがスキャンダルによって失速するのを防ぐ

▼小泉純一郎元首相に秘書官として仕えた飯島勲さんは、その一端を著書に記している。首相の方針に沿わない言動をしていないか、新聞記事や講演録を調べる。カネにまつわる問題がないか、政治資金収支報告書もチェックする

▼登用が有力視されたある人物は、常任委員会の委員長だった際、審議中の法案の関係業界から献金が集中していた。これは怪しい、と起用を見送ったという（「政治の急所」）

▼この言葉が注目を集めるのは、一連の調査が機能しなかった時である。一般によく知られるようになったのは２００６年に発足した第１次安倍内閣の頃だ。不祥事などで閣僚の辞職が相次いだ

▼そして今また連日のように取り沙汰される。岸田内閣は昨年、4 閣僚の辞任ドミノに見舞われ、9 月の内閣改造後も副大臣と政務官の計 3 人が職を辞した。更迭された財務副大臣に至っては税金を滞納していたというからあぜんとする。内閣の一員の検査もできない政権に、国民生活への目配りなどできるのか。

（政府サイトより）

北朝鮮から発射された弾道ミサイルが日本に飛来する可能性がある場合における全国瞬時警報システム（Jアラート）による情報伝達について

北朝鮮は過去に例を見ない頻度で弾道ミサイルを発射し、令和4年10月4日には、弾道ミサイルが日本の上空を通過する事案も起こっています。

政府としては、いかなる事態にも対応することができるよう緊張感をもって必要な対応に万全を期しているところです。

北朝鮮から発射された弾道ミサイルが日本に飛来する場合、弾道ミサイルは極めて短時間で日本に飛来することが予想されます。仮に、北朝鮮から発射された弾道ミサイルが日本の領土・領海に落下するまたは日本の領土・領海の上空を通過する可能性がある場合には、政府としては、24時間いつでも全国瞬時警報システム（Jアラート）を使用し、緊急情報を伝達します。

Jアラートを使用すると、市町村の防災行政無線等が自動的に起動し、屋外スピーカー等から警報が流れるほか、携帯電話にエリアメール・ 緊急速報メールが配信されます。なお、Jアラートによる情報伝達は、国民保護に　　警 報 のサイレン音を使用し、弾道ミサイルに注意が必要な地域の方に、行います。

（政府サイトより）
弾道ミサイルとは

1　弾道ミサイルの特性

ミサイルは、ロケットエンジンやジェットエンジンを使って目標に向かって飛ぶ兵器であり、目標破壊のための弾頭、飛行制御のための誘導制御部、エンジンなどの推進部などから構成される。このうち弾道ミサイルは、主にロケットエンジンで推進し、発射後、上昇しながら速度を増しロケットが燃え尽きた後はそのまま慣性で飛翔するため、放物線を描いて目標地点に到達する。

弾道ミサイルは、空気が非常に薄く、抵抗が少ない大気圏の高層や宇宙空間といった高々度を飛行するため、同じエネルギーでもより遠距離に到達することが可能であり、また、大気中を飛行する航空機や巡航ミサイルよりも高速となる。このため、一般的には、「長射程」、「高速」、「高々度」などの特徴を有するが、具体的には次のとおりである。

射程：短いもので数十km、長いものは1万km以上(東京・朝鮮半島間約900km、東京・ハワイ間約6,400km)

速度：射程1,000km級の弾道ミサイルの最高速度は毎秒約3km(マッハ約9)(航空自衛隊の要撃戦闘機F－15の最高速度の約4倍)

高度：数百kmから1,000km以上(射程1,000km級の弾道ミサイルの最高高度は約300km。旅客機の飛行高度は約10km)

このように、遠距離から発射され、高々度を超高速で飛行する弾道ミサイルを探知することは非常に困難であり、また、極めて短時間で目標に到達することから、仮に探知できた場合でも、対処のために許される時間は極めて限定される。

4．言葉はゆっくり取り入れる

- 日本語として定着しきった言葉には安定感……定着した言葉で必ず表現できる
- メディア発信の言葉に要注意――テレビ、ネット、雑誌などが作り広める言葉や表現を真似すると、感覚がうつって麻痺する。

Ex.）詰んでいる、沼ってる、課金する、やさしみ、うれしみ、服捨て、アウェイ、罪悪感のない、ギルトフリー、肌悩み、買いまわり、Gが出た！、良き良き、テンション爆上がり

- カタカナ語や業界用語、独特な言い回しは通じにくい原因

  Ex.) メールを飛ばす、～がなかったと言えば嘘になります、1mmも～ない、お電話とること叶いますため、一丁目一番地、京都「へ」行く、保育園には通っていなく（連用中止形）、～したところである（した直後でもないのに）

《日々の養生３》肩甲骨を強めにストレッチ

両手を前で組んで、肩甲骨を左右に開く。両手を後ろで組んで、肩甲骨を寄せる。

５．内言語の最適化（復習）

- 自分の中で起こる反応をチェック――内言語は静かで穏やかが良い
- 欲から生じる自分感覚で反応しない――独自の内在的論理になりがち
- 上質な積み重ねで自分を育てている感覚を大切に――理論武装で論破するスタイルがまずいワケ
- 否定的・攻撃的な言葉は受け取らない――チューニングをずらす
- 情報を真に受けない距離感

《日々の養生４》深いスクワット

しゃがんだら、そこからさらに股関節をグーッとストレッチするように深く沈めてから立ち上がる。